

2025年7月22日
愛知中小企業家同友会
会長 高瀬 喜昭

第27回参議院議員通常選挙の結果を受けて（会長談話）

参議院選挙が投開票を終え、与党が過半数を割り込む結果となりました。最大の争点となったのは物価高対策でしたが、実質賃金のマイナス基調が続く中、「物価上昇を上回る賃上げ」を訴えた与党の説得力は乏しく、有権者の内心に燦る懐疑を払拭することはできませんでした。

他方で今回の選挙では新興政党の伸びが目立ちました。経済の長期停滞、税・社会保障負担の増大をはじめとした「積年の病弊」に苦しむ現役世代が、政治への不満と怒りを示した結果と見て取ります。ただし、聞こえの良いフレーズ、大仰な物言いが飛び交った今回選挙が、将来を見据えた政策的議論を有権者に正しく届けるものとなっていたのか疑問を禁じ得ません。

世界的に与党の敗北ないし後退は大きな潮流です。暮らしをめぐる身近な諸課題の解決が図られない中で、既存政治への信認が凋落していることがその背後にはあります。この点について、今回の選挙で鮮明になったのが、排外主義とも受け取れる主張への共感の広がりです。今回選挙ではSNS 上での虚偽情報の拡散のみならず、憎悪をむき出しにした街頭演説も目立ちました。明確なエビデンス、ファクトに基づかない主張の広がりには看過できません。欧米のポピュリズム政党に似た動きが、日本にも及んできた可能性に社会の分断を憂慮します。同時に、古代ローマの風刺詩人ユウェナリスの「パンとサーカス」の警句を引くまでもなく、私たち国民自身の「賢さ」が問われている時代であることを強く訴えます。

政党が乱立する多党制が続く現在は、混沌の時代とも表現できるでしょう。このような中でこそ、本来なされるべき「国のあり方、ありたい姿」に向けた具体的議論を国民は切実に求めています。それは、多様な価値観に丁寧に向き合い、国民一人ひとりの暮らしに真に寄り添う、血の通った政治への抜本的転換です。新興政党への支持の広がり、真に豊かさを実感できる経済社会への転換を念願する国民の声と受け止めるべきです。

国民が真に豊かさを実感できる経済社会は、地域経済の根幹を成す中小企業それぞれが、自立した存在として活動できるよう、健全な自助努力を基礎とし、それを強力に後押しする政策展開なしには成し得ません。その意味で「中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役」と謳った中小企業憲章の理念に立ち返り、従来路線からの抜本的政策転換を求めます。

今回選挙は、1925年の日本における普通選挙開始から100年の節目でした。普選100年の教訓とは、自主的・平和的な経済社会の実現に向け、国民の声に誠実に耳を傾け、その内心に思いを致す民主政治の確立と実行であると確信しています。

今回選挙で国民の信認を得た参議院には、「良識の府」としての矜持のもと、「熟議」によって人間の尊厳を守り、その権利の実現を目指す真の民主主義の実践を切望するものです。

.....

愛知中小企業家同友会とは

現在、愛知県下4,400名の中小企業経営者が参加する異業種の経営者団体で、「経営体質の強化」「経営者の資質の向上」「経営環境の改善」をめざすという「3つの目的」に基づき活動しています。

1. 名 称 愛知中小企業家同友会
2. 会員数 4,407 名（2025 年 7 月 22 日現在）
3. 会 長 高瀬 喜照（たかせ よしてる） 株式会社高瀬金型 代表取締役社長
4. 事務局 名古屋市中区錦 3－6－29 サウスハウス 2 階
電話 052-971-2671 FAX 052-971-5406
専務理事 内輪 博之、事務局長 多田 直之
事務局次長（報道担当）八田 剛、事務局次長（政策担当）池内 秀樹